

ことばの芽を育てましょう

赤ちゃんは1歳頃になるまでのなん語や泣き、笑いなどがみられる「前言語期」があります。

「だっこしようか」「おっぱいほしいの？」等の言葉をかけると行動と言葉がつながってきます。

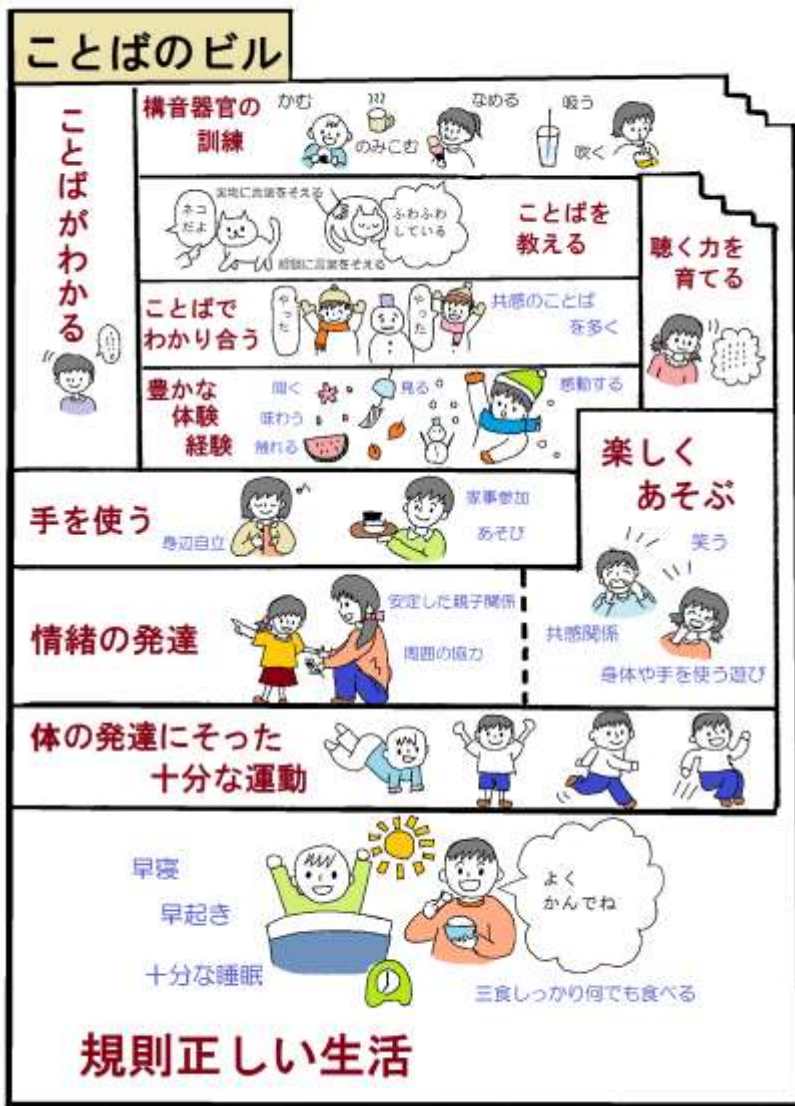
「おいしいね」「寂しかったね」等の言葉をかけると自分の感情と言葉を結びつけていきます。

笑いかけたり、話しかけたりすると、とても喜びます。

赤ちゃんと何を話せばよいかと悩みがちですが、日々の生活や遊びのなかで、物の名前や感情を言葉にしましょう。赤ちゃんは見て、感じて、声に出して、一つ一つ言葉を拾い、それを積み重ね、言葉がたまってきたころにおしゃべりを始めます。

ことばの発達は、日常生活の体験の積み重ねにより促されます。

ことばの芽を育てる土台は規則正しい生活です。



規則正しい生活は、
お子さんの発達に欠かせない
全ての土台です。



赤ちゃんの暮らしにメリハリをつけ、「寝る時間」「食事の時間」「遊びの時間」「お風呂の時間」と大きな柱を作ってみましょう。

* 絵本の読み聞かせのススメ

～読みたい・見たい・さわりたいを見守りましょう～

「まだ言葉も話せないのに？」と思われるかもしれませんが、この時期は絵本と関わる良い時期です。

読むというよりは、赤ちゃんがしたいように、見たいぶんだけペラペラと見るだけで充分です。大事なのは、親子で過ごすひとときを好きになることです。



絵本は、肌のぬくもりを感じながら言葉と心を通わせるかけがえのないひとときです。おひざに寄せ、あるいは抱っこして、同じ方向から一緒に同じものを見て楽しむのを「共同注視」といい、赤ちゃんが言葉を獲得するときにとっても大きな役割を果たします。

親子と一緒に同じものを見て、語り合える時間は長い人生の中でもそんなにありません。お膝の上で絵本を読んでもらった、絵本を読んで寝かしつけてもらった・・・そんな日々はあたたかな宝物のように心に残ります。

大事にしたいひととき、親子で楽しんでください。絵本を読むのは1割、赤ちゃんの気持ちを读むのが9割です。

図書館でも読み聞かせをしています。どなたでも参加できますのでぜひご利用ください。



* お気に入りの絵本を見つけましょう

同じ言葉を何度も聞くことで、言葉の発達も促されます。

いろいろな絵本を読ませるのではなく、赤ちゃんの心のキャッチボールができるお気に入りの絵本を見つけましょう。食べ物が好きな子には食べ物の絵本、車の好きな子には車の絵本など、その子の興味や関心に合わせて選ぶのもよいでしょう。赤ちゃんの気が乗らない時には無理せず、ご機嫌なときに再挑戦すればよいです。

好きな絵本は、お出かけの時のお助けグッズになったり、寝かしつけの魔法になったりします。

* 図書館の読み聞かせもあります

絵本や紙芝居・手遊びなどを用意しています。どなたでも参加できます。

市内各図書館で実施曜日や時間が異なります。

🌸 コミュニケーションは、人との直接のやりとりを通して育ちます。映像や音源を聞かせるのは一方的な情報の与え方なので、言葉と感情の結びつきにとって充分ではありません。集中力や注意力が落ちたり、脳の領域が変化すると言われています。

お子さんは興味を持たれると思いますが、乳幼児期にゲームやスマホで子守をすることはおすすめできません。

機器の与え方や時間について大人が環境づくりをしてあげてください。

